

# 秋 全大教教研集会へ行く3

～ 編集者 S 名古屋放浪記(3) 分科会 B と宴(技術職員) ～

分科会 B は「技術職員部会」に参加しました。熊大の技術部(工学部)は全国的にも注目されており、多くの単組が熊大技術部の組織のあり方、および活動について手本(基礎)にしているようである。今回は熊大からの報告はしなかったが、新しい形の技術組織形態や技術職員の本来の仕事について、状況報告および議論が行われた。ひとつ、名古屋大学の場合は今年度、大学全体の技術職員をひとつの組織(技術支援センター)としてまとめました。基本的には今までどおり学部の仕事がメインになるようですが、いずれは他の学部のアシストもしないといけなくなるような感じです。また、大学本部より遠隔地にある農場の技官などは、人数も少なく、仕事内容(時間等)も不規則なため、「業者を入れるか」という話もあったりと、就職したばかりで仕事が無くなるのではないかと、という心配を切実に報告してくれました。これはどこの技術職員にも通ずることなただけ、技術職員がやっている仕事というのは、大学の職員だからこそ辛いところにも手が届き、学生指導や研究に貢献できているものと考えます。業務内容の決まった派遣社員にはできないことはたくさんあります。いくつかの大学では定員削減のため、技術職員がほとんどいないという大学もありますが、幸い熊大工学部では技術職員の重要性を理解していただいていることもあり、定員の現状維持をほぼキープしています。技術職員はその期待にこたえましょうね。




分科会後、技術職員懇親会が手羽先で有名な「風来坊」で開催されました。「仕事が無くなるんじゃないか」という不安を報告してくれた娘が乾杯の音頭をとり、始まりました。その後は酒が入って気が知れたのか、技術職員とはどうあるべきか等を分科会以上に盛り上がり議論があらゆる所で始まったのです。なかには若い技術職員が集まり盛り上がっているところもありましたが、



オイラはもうオッサンの域に入ってきているので、年配の方としみじみ語り合っていました。以前やったらすんなりと入っていったのかもしれないが、前号で載せたように、すこし引きこもり気味のオイラには、最近の若い子達の積極性が非常に眩しく映っていたのかも…。

## 編集者のぼやき

今回帰宅までかけなかったけど、帰る前に立ち寄ってきました。名古屋といえば「味噌カツ」で有名な「矢場とん」へ行ったんだけど、  
  
一時間半も待たないといけなかった状況だったので、諦め「ひつまぶし」へ…。そうそう、矢場とんってビル全体がとんかつ屋な



のさ。そのフロア全部が満席というから凄いよね。まさに「名古屋味噌カツ Dream」をゲットしたって感じだよね。それと「ひつまぶし」。そのままでもいいし、お茶漬けにしても美味しい。けっこういけるよ。あっ、もう文字が入らないんで終了。次号から新しいネタ探し。



熊本大学教職員組合青年部機関紙  
やまくら～ズ 発行 No.11 2005/10/24